令和元年７月15日発行（隔月刊）　刀　剣　界　第48号

刀剣界
NEWS, TOPICS, INFORMATION, OPINION & EDITORIAL

2019.7.15　No.48
発行人　深海　信彦
発行所　全国刀剣商業協同組合 編集委員会
〒169-0072 東京都新宿区大久保２－18－10
新宿スカイプラザ1302
TEL:03(3205)0601　FAX:03(3205)0089
http://www.zentosho.com/

第48号編集担当　赤荻　稔　飯田　慶雄　伊波　賢一　大平　岳子　大平　将広　木村　義治　嶋田　伸夫　清水　儀孝　生野　正　瀬下　明　土子　民夫　綱取　譲一　土肥　富康　服部　暁治　深海　信彦　松本　義行　冥賀　吉也　持田　具宏

「平成の名刀・名工展」が開幕

32名が受賞、新時代での活躍を誓う

平成年間に優れた作品を製作し、刀剣界に大きな貢献を残した刀匠たちを顕彰する公益財団法人日本美術刀剣保存協会・公益財団法人日本刀文化振興協会・全日本刀匠会主催の「平成の名刀・名工展」が五月十八日、岡山県の林原美術館を皮切りに開幕した。

これに先立って五月十七日、ホテルグランヴィア岡山を会場に授賞式が挙行された。

会場には受賞者のほか、主催・共催・審査などの関係者が全国から参集、晴れがましい雰囲気の中、公益財団法人日本美術刀剣保存協会・酒井忠久会長の開式の辞で開始となった。

冒頭の式辞は同展運営委員長の渡邉妙子氏（佐野美術館館長）が述べた（別掲）。次いで、審査委員長の稲田和彦氏（京都国立博物館名誉館員）からは、「他の工芸に比べて重要無形文化財保持者（人間国宝）の認定が斯界に久しくないことは、関係者の一人として誠に寂しい。ぜひ近々の認定を」と、刀剣関係者の意思を代弁して強いアピールがあった。

本展の実現に向けては「刀剣・和鉄文化を保存振興する議員連盟」と文化庁の強い後押しがあったが、同連盟事務局長・山田宏参議院議員と文化庁・宮田亮平長官（文化財第一課長・平山直子氏代読）から祝辞が寄せられ、平成に引き続き令和の新しい時代においても作刀界の発展を期待する旨が伝えられた。

受賞者（別掲）は一人ずつ壇上に立って運営委員長から栄誉の賞状・賞杯を授与された後、祝賀会に参加した。

なお、本展は今回限りの顕彰展であるが、今後は新たな基準に基づき、三団体が共催するコンクールとして発展させ、継続開催することが期待されている。

（撮影／トム岸田）

受賞者・関係者が一堂に会して

開式を告げる酒井日刀保会長

渡邉運営委員長から賞状・賞杯を贈呈される4人の大賞受賞者

ご　挨　拶

「平成の名刀・名工展」運営委員長　渡　邉　妙　子

令和元年５月の良き日に、「平成の名刀・名工展」開会式が、国会議員、文化庁など多くの方々にご参集いただき、盛大に開催されますこと、有難く、厚く御礼を申し上げます。

三十余年に及ぶ平成の時代は、昭和の名工たちの後を受けて、刀工たちの努力が実り、安定して、バランスの取れた名刀が多く作られた時代でした。まず地鉄の供給には、日刀保たたらが日立金属株式会社のお力添えを得て供給され、また、自家製鋼については各々の努力によって特色ある地鉄の作品が生まれました。作風も備前伝が展覧会会場を華やかに彩り、一方、相州伝の力強い沸出来も作られ、これらの作品は人々の感動を呼びました。

さらに振り返れば、昭和の時代は敗戦により、日本刀鍛造が禁止されるという日本刀史上初めて体験する苦境に遭遇したわけですが、わが民族の忍耐強さと、伝統を守ろうとする努力を惜しまぬ姿勢によって、高橋貞次（昭和30年）・宮入行平（昭和38年）・月山貞一（昭和46年）・隅谷正峯（昭和56年）四氏の重要無形文化財保持者が生まれました。次いで平成に入り、天田昭次・大隅俊平（平成９年）が認定されました。

わが国の伝統工芸の中で、日本刀はその品格の高さにおいて、世界の人々が認める優れた芸術であります。

現在、日本刀を製作する刀工たちが競う展覧会は三つあり、公益財団法人日本美術刀剣保存協会、公益財団法人日本刀文化振興協会、全日本刀匠会がそれぞれ主催しております。各展とも独自の特色を持つ展覧会であります。

今回の展覧会は平成年間の新作刀剣の世界を振り返り顕彰するため、各会が英知を絞り、「刀剣・和鉄文化を保存振興する議員連盟」事務局長・参議院議員山田宏先生より調整ならびに文化庁の協力をいただき、今日を迎えることができました。

次は、来年度以降この３団体協議の下、刀工たちが製作した刀剣で競う合同展覧会開催に向け、意欲的に取り組む方針であります。

「平成の名刀・名工展」は、明日より日本刀のメッカとも言うべき岡山県の林原美術館を皮切りに、東京の刀剣博物館、長野県の坂城町鉄の展示館で開催されます。平成の名工たちが全身全霊を込めた名刀が展示されております。

本日の受賞者は、平成の御代に各会の受賞歴から選定された名工たちであります。受賞者たちの栄誉に万雷の拍手でお祝いしたいと思います。

←次ページに続く

最初の展示会場となった林原美術館

林原美術館の展示風景

刀剣　髙吉
古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください！
連絡先 090-8845-2222
代表者　髙島吉童
東京都北区滝野川７-16-６
TEL 03-5394-1118
FAX 03-5394-1116
www.premi.co.jp

刀剣・書画・骨董
和敬堂
土肥豊久・土肥富康
〒940-0088 新潟県長岡市柏町1-2-16
TEL 0258-33-8510
FAX 0258-33-8511
http://wakeidou.com/

美術刀剣・刀装小道具商
やしま
齋藤雅稔・隆久・隆洋
刀装小道具通信販売目録「やしま」
年間10回位発行予定
購読料10回 2,000円（郵便切手可）
〒202-0022 西東京市柳沢６－８－10
TEL 042-463-5310
FAX 042-463-7955

刀剣古美術
三峯美術店
町田久雄
埼玉県秩父市野坂町一－十六－二
西武秩父駅連絡通路 町久ビル内
TEL ○四九四－二三－三○六七
FAX

美術刀剣、小道具、武具類の売買、加工及び御相談承ります
大阪刀剣会
吉井唯夫
大阪市中央区日本橋二－七－一
TEL ○六－六六三一－二二一○
FAX ○六－六六四四－五四六四

令和元年７月15日発行（隔月刊）　刀　剣　界　第48号

「平成の名刀・名工展」受賞者

◆平成の名刀・名工大賞
河内　道雄（奈良県）
月山　　清（奈良県）
宮入　法廣（長野県）
吉原　義人（東京都）

◆平成の名刀・名工準大賞
三上　孝徳（広島県）
宮入　　恵（長野県）

◆特別奨励賞
久保　善博（広島県）
川﨑　仁史（埼玉県）

◆奨励賞
高見　一良（兵庫県）
明珍　裕介（兵庫県）

◆平成の名刀・名工選
加藤　政也（栃木県）
松葉　一路（宮崎県）
木村　光宏（熊本県）
河内　一平（長野県）
吉原　荘二（東京都）
松川　　隆（長野県）
上山　陽三（岡山県）
石田　智久（群馬県）
尾川　光敏（岐阜県）
赤松　伸咲（岡山県）
上林　勇二（山形県）
小宮　治気（福岡県）
月山　一郎（奈良県）
山口　　武（岩手県）
根津　　啓（長野県）
吉川　三男（東京都）
松田　周二（千葉県）
宗　　正敏（福岡県）
瀬戸　吉廣（福岡県）
小宮早陽光（福岡県）
加藤賀津雄（岐阜県）
宮城　正年（宮城県）

※応募者41名、入選者32名、掲載は受付順

「平成の名刀・名工展」開催概要

〔岡山会場〕
会場：林原美術館
会期：令和元（2019）年５月18日㈯～７月７日㈰

〔東京会場〕
会場：刀剣博物館
会期：令和元（2019）年８月24日㈯～10月６日㈰

〔長野会場〕
会場：坂城町鉄の展示館
会期：令和元（2019）年11月９日㈯～２（2020）年２月２日㈰
主催：公益財団法人日本美術刀剣保存協会
　　公益財団法人日本刀文化振興協会
　　全日本刀匠会
共催：刀剣博物館・坂城町鉄の展示館・林原美術館・山陽新聞社・SBC信越放送
協力：文化庁

〔審査員〕
審査委員長　稲田　和彦（京都国立博物館名誉館員）
審査副委員長　原田　一敏（ふくやま美術館館長）
委　　員　佐々木正直（群馬県立館林美術館館長）
委　　員　内藤　直子（大阪歴史博物館学芸第二係長）
委　　員　三島　知美（大倉集古館元学芸員）
委　　員　三角　正人（塚本美術館副館長）
委　　員　渡邉　妙子（佐野美術館館長）

第32回通常総会・臨時総会を開催

役員定年制を廃止し、新役員を選出

全国刀剣商業協同組合の第三十二回通常総会は去る五月十七日、東京美術倶楽部において開催されました。

午前十時、司会者の松本義行理事より出席状況の報告があり、組合員総数百六十九名中、出席者七十名、委任状提出者八十二名、合計百五十二名と過半数に達したため、総会は成立することが告げられました。

服部暁治副理事長の開会の辞に続いて清水儀孝理事長より挨拶があり、その後、議長に選任された清水理事長の進行で直ちに各議案の審議に入りました。

〈第一号議案〉平成三十年度事業報告承認、ならびに平成三十年度会計報告承認、同監査報告
〈第二号議案〉令和元年度事業計画案
〈第三号議案〉令和元年度収支予算案
〈第四号議案〉役員報酬の件
〈第五号議案〉経費の賦課および徴収に関する件
〈第六号議案〉令和元年度借入金残高の最高限度に関する件
〈第七号議案〉一組合員に対する貸付け、または一組合員の為にする債務保証の最高限度に関する件

以上については、承認を経て滞りなく終了しました。次に、第八号議案「役員の改選」は、選挙に要する時間の関係上、これに先立って第九号議案「その他」の審議が行われました。

ここでは、議場の役員と組合員から役員の定年と役員定数に関する緊急動議がありました。

その内容は、現在の満七十歳定年を二年引き延ばし、満七十二歳定年に改定してほしいというものでした。役員の定年制は規約に基づくもので、その改定には全組合員に賛否を問う必要があることから、議長は後日、定年年齢について書面総会を開催することを通告しました。また、役員定数については、継続審議とすることになりました。

本件は第八号議案の役員の被選出資格に直接関係するため、改選に伴う選挙は後日あらためて実施することとなり、以上をもって当日の議事は終了し、土肥豊久副理事長より閉会が宣せられました。

現在の理事および監事の任期は本来、今回の通常総会終了時までであり、また組合事業の柱である「大刀剣市」の開催に向けて実行委員会を発足させることが急務であることから、書面総会の開催に先立ち、五月二十七日に臨時理事会を開催、役員の定年年齢と役員定数が審議されました。

その結果、書面総会において問うべきは、定年の年齢が七十歳か七十二歳かではなく、現在の定年制維持か定年制撤廃かであることが、賛成多数で可決されました。

また役員定数については、現状の十七名を維持することが全員一致で可決されました。

役員定年制の可否について、直ちに組合員の総意を確認する書面総会を実施した結果、定年制の撤廃案への賛成が過半数を占め、定年制の廃止が決定しました。

その結果、第八号議案「役員の改選」においては、組合員全員が被選挙人になることが決定したため、本件にかかる臨時総会が六月十日午後一時より東京美術倶楽部において開催されました。

組合員総数百六十九名中、出席者三十二名、委任状提出者六十二名、合計九十二名と過半数に達したため総会が成立することが議場に告げられた後、選挙管理委員によって、委任状と不在者投票が開封されました。次いで出席した組合員による投票が行われ、即時開票の結果、次の十七名の方々が新理事に決定しました。出席者三十一名（議長を除く）、委任状三十三名、不在者投票四十二名でした。

伊波賢一・飯田慶雄・大平岳子・佐藤均・猿田槙男・嶋田伸夫・清水儀孝・生野正・瀬下明・綱取譲一・土肥豊久・服部暁治・深海信彦・松本義行・冥賀吉也・持田具宏・吉井唯夫（五十音順）

続いて別室にて新理事による互選が行われた結果、深海信彦氏が理事長に選出されました。

以上をもって、臨時総会は滞りなく終了しました。

なお、今回の臨時総会および選挙は全国中小企業団体中央会の指導に基づき、公明正大かつ厳正に行われました。

直ちに第一回理事会が開催され、深海新理事長はじめ各理事から組合運営に携わる抱負が表明された後、審議に入り、第三十二回大刀剣市の実行委員会発足について、満場一致で承認されました。

この間、組合員の皆さまから多くのご意見やご要望を寄せていただきました。また、再々のご案内にも速やかなご協力を頂戴しました。厚く御礼申し上げますとともに、引き続き今後のご支援をお願いする次第です。（嶋田伸夫）

臨時総会における役員選出の投票風景

新たに選出された理事による第１回理事会（６月10日）

〈急告〉古物営業法の改正により、古物商の事業者は管轄する警察署に「主たる営業所の届出」が必要になりました。この届出をしない場合には、遅くとも二〇二〇年四月二十四日時点で無許可営業となります。

NEWS & TOPICS

刀剣四団体が議連に要望を提出

六月四日、東京千代田区の自民党本部において「刀剣・和鉄文化を保存振興する議員連盟」の会合があり、公益財団法人日本美術刀剣保存協会・公益財団法人日本刀文化振興協会・全日本刀匠会の各代表とともに、当組合から清水理事長と嶋田専務理事が出席した。

今回は来年度の活動に向けて、四団体からの要望聴取が主な目的。

日刀保からは①日刀保たたらへの一層の支援、②各種研修会への補助金交付、③国際的展覧会開催時の支援が、刀文協からは①選定保存技術保持者の追加認定、②将来の三団体合同展開催の基金調達が、刀匠会からは後継者育成を目的とした研修会への支援、などが要望された。

当組合からは、刀剣の輸送扱いが国内・海外とも「刀剣」としては認められていない現状について説明し、広く内外に普及させるにはこうしたインフラが不可欠であることを訴えた。これについて議員から質問があり、また賛意を頂くことができた。

会議終了後、日刀保の協力で名刀鑑賞会が開かれ、議連のメンバーは日刀保・日野原大学芸部長の解説を聞きながら、国会開会中の多忙な中、和やかなひとときを味わっていた。

名刀を鑑賞する議連の皆さん

令和元年７月15日発行（隔月刊）　**刀　剣　界**　第48号

刀剣業界の情報紙である『刀剣界』では、**記事を募集しています**。ニュースや催事情報、イベント・リポート、ブック・レビュー、随筆・意見・感想など、何でも結構です。写真も添えてください。組合員・賛助会員以外の方も歓迎です。ただし、採否は編集委員会に諮り、紙面の関係で編集させていただくことがあります。

ある刀屋の履歴書

飯田 慶久（飯田高遠堂）

◆第二回　日蓮聖人の坐像

平成十四年、私は伊予西条松平家に伝来した金梨子地葵紋の蒔絵硯箱、雛道具、蒔絵盃、反物台、家康筆和歌短冊など十二点を、愛媛県歴史文化博物館にお世話させていただいた。

松平様のご自宅に伺った折のこと、ご当主が黒漆塗葵紋蒔絵の箱を出してこられ、「どんなものか調べてほしい」と言われた。「うちにあったものだから、家康の筆かもしれんぞ」と笑って見せられたのが、軸装された短冊だった。

久能山東照宮博物館の小林明先生にお調べいただいたところ、結果は徳川家康の真筆だった。

再び伺ってそのご説明をすると、松平様の目は一瞬点になったが、すぐに笑顔で一言おっしゃった。「飯田、次はおまえの出番だ」

その後も伺う度に、松平家伝来の品々を拝見させていただいた。

平成十五年のある時、木彫の日蓮聖人坐像を出してこられ、「何年ぐらい前のものかわかるか」と質問された。「私は刀屋ですから、仏像は門外漢です」と遠慮したが、「大体でいいんだ、大体で」と何度もおっしゃるので、漆や蒔絵の古色の状態から見て「百年や二百年前のものではないと思います。四百年ぐらいはあるのでは」とお答えした。

「それなら、詳しく調べてくれないか」ということになったが、簡単に持ち出せるものでもないし、どうしたものか思案に暮れていた。

そんな折、たまたま当店に立正大学名誉教授の中尾堯先生がお見えになった。先生は仏教学の権威で、特に日蓮宗の研究で知られる。私は事情をお話しし、調査していただけないかお願いした。

すると先生は「今日、日蓮さんの坐像のいいものなんか、出てこないよ。私は既に全国二百カ所以上も調査したが、いいものなんかない。大体、そんなものが地元でなく、何で自宅にあるんだ」と、けんもほろろ。私は「毎日拝むものだからこそ、江戸屋敷にあったのではないでしょうか。それに、一度もお国入りされなかった殿様もおられたみたいですよ」と申し上げたら、先生は「君がそこまで言うのなら、一度行ってみるか」という話になった。

調査の当日、中尾先生はお弟子さんの寺尾英智先生を帯同されていた。寺尾先生は現在、立正大学教授だが、当時は身延山大学教授を務め、日蓮宗に関する著書を吉川弘文館や雄山閣から出しておられた。

坐像をざっと拝見した中尾先生は、いきなり首の部分を持って引っ張り上げた。ポンと大きな音がして、首が取れた。その穴に手を入れ、取り出した一巻の巻物を、先生は朗々と読み上げられた。

「タイムカプセルのようなものです。この坐像を作らせた人がわかりました。家康の側室であるお万の方です」

坐像の背面の汚れを取ると「元和三年龍集　丁巳七月良辰　南無日蓮大菩薩　日遠（花押）」の墨書が現れ、一六一七年に身延山久遠寺二十二世の日遠上人が開眼したことも判明した。四百年前という私の見立ては、たまたま的中していたのである。

そして、中尾先生が松平様ご夫妻に説明された結論はこうであった。「この坐像は本来、西条にあるべきものでしょうが、毎日拝むものなので、江戸屋敷の方に置かれたのでしょう」

調査が終わり、帰ろうとした時、仏壇の横の小さな巻物が目に留まった。奥さまに「こちらも拝見してよろしいでしょうか」と申し上げると、「ご覧に入れるようなものではないと思いますが」とおっしゃるのを「先生方がいらっしゃるこの機会に、ぜひ見ていただきましょう」と、中尾先生につないだ。スルスルと巻物を広げた時、中尾先生の背中越しに見ていた寺尾先生が「日蓮の真筆じゃないですか」と言い、中尾先生は「オー」と大きな声を上げた。お二人の興奮ぶりは尋常ではなかった。

松平家を後にして、両先生を目白のそば屋にご案内した。

中尾先生は「今日は飯田さんのおかげでいいものが見られた。大概は無駄足になるが、今日は本当に良かった」と言われ、私もうれしかった。

「先生は古文書にも詳しいですね」と申し上げると、「私は日本古文書学会の会長だったこともあるし、文化審議会専門委員もしているのだよ」と言われたのには、恐縮してしまった。

徳川家康筆の短冊

坐像を調査する中尾（右）・寺尾両先生

この日蓮の真筆は後日、中尾先生のお世話で新宿区のお寺に寄付されている。

松平家にお出入りする中で、忘れることができない一振が、国宝の花押久国の太刀である。

西条久国とも呼ばれ、粟田口久国の最高傑作とされている。東京国立博物館におられた加島進先生は「国宝百二十振中、五指に入る名刀」とおっしゃっていたが、誠に健全で非の打ち所のない名刀だった。

この太刀を当店にお預かりできることになり、松平様とご一緒に寄託先の徳川美術館に引き取りに伺った。

結論から言うと、力及ばず、この太刀をお世話することはかなわなかった。ご希望の価格で購入していただける方を見つけることができなかったのである。

その後、私のご提案で国に申請し、国が購入することとなった。個人的には残念だったが、あれだけの名刀であるから、それはそれで良かったと思う。

花押久国には昨年、京都国立博物館で開催された「京のかたな」展で久しぶりにまみえ、当時のことが懐かしく思い出されたものである。

質問箱　第一回・越前来

回答者◉冥賀　吉也

■無銘の刀を審査に出したところ「越前来」に極められました。越前来とはどのようなものか、よくわかりませんので、詳しく教えてください。

無銘の刀を鑑定する場合、まずその刀が生（うぶ）無銘なのか、大磨上無銘なのかを判断しなければなりません。

次に、姿・地鉄・刃文・帽子などの調査はもちろん必須ですが、茎の状態、鑢目、目釘穴の形なども重要な要素です。

さらに伝来、例えば古折紙が付いている場合、折紙が現物と合っているかどうか、口伝はどうかなど参考にしながら、鑑定を進めていきます。刀剣そのものの品格も重要なポイントです。

それらを総合的に調査し、在銘品と比較しながら、いつの時代のどこの国の何派の刀工であるか判断します。在銘の刀に最も近い作風であったり、折紙が付いている場合は個名で極められますが、「無銘 当麻」などと流派極めになる場合も多々あります。

ご質問の「越前来」は個名極めでなく、いわゆる流派極めの鑑定であります。

次に越前来について、関連文献を参考にしながら説明いたしましょう。

『日本刀大鑑』によれば、「本国が京で、来国安の弟子・千代鶴国安という者が貞治ごろ（南北朝中期）越前国に来て千代鶴派の祖となった。国安は越前丸とも称し、銘に千代鶴とも来国安とも切るといい、同国に来宗光なる刀工がいて、共に越前来とも言われている」とあります。

『日本刀銘鑑』（石井昌国編）では、国安を三名挙げています。

▽**国安**　越前来。千代鶴派の祖。生国山城。摂津にても打つ。来国末孫。来国安門。来国安とも切るという。

▽**来国安**　越前来。千代鶴。敦賀住。嘉慶（南北朝後期）頃。越前。

▽**国安**　越州住国安。越前住千代鶴作。来。千代鶴。越前。

各代あるのか、一人説なのか、現在のところ不明です。

重要刀剣では「越前来」極めの指定は一振もありませんが、無銘 来国安や無銘 伝来国安の極めで三振が指定されています。『重要刀剣図譜』の説明文には、

▽国安は本国は山城で、一説に来国末の孫といい、後に越前に移住し、越前来と称された。

▽来国安は生国は山城で、一説に来国末の孫といい、後に越前に移住し、千代鶴派の祖となった。

とあります。

次に、越前来の作風についてですが、『鑑刀日々抄』続2に越前来国安極めの刀を、

「地刃に五か伝ずばりでない作風があって北国物の感あり（板目流れ肌交じってややざんぐりとした地景入り地沸よくつき地斑黒めに交じる）、南北朝時代のいわゆる越前来国安ならば一応首肯される」と説明しています。

一般的に越前来に極められている作風を述べると、

▽姿…延文・貞治頃の姿、南北朝後期に見られる姿の二様がある。

▽地鉄…板目に杢目・流れ肌を交え、肌立ちごころとなり、地沸微塵に厚くつき、地景細かくしきりに入り、黒みがある。

▽刃文…広直刃調に小丁子足入り、来国光あたりにも見えるが、一歩譲るところのもの、直刃調に小湾れ、互の目交じり、足入り、沸よくつき粗めの沸交じり、砂流しの目立つものの二様がある。

▽帽子…浅く湾れ込み、小丸に掃き掛ける。

結論的には、越前来とは南北朝中期～後期にかけて越前国にて活躍した越前千代鶴国安を中心に製作された刀剣であり、作風は地刃に南北朝期の来派の特色を表しながらも、地刃が肌立ちごころとなり黒みがかり、帽子も掃き掛けるなど、北国気質の見られるものが越前来と言えます。

越前来の作例

日本刀の江州屋
名品・名刀を販売
店主　小暮　昇一
〒529-1315
滋賀県愛知郡愛荘町沓掛80-1
TEL　0749-42-2736
携帯　090-3162-7641
http://www.goushuya-nihontou.com

令和元年７月15日発行（隔月刊）　刀　剣　界　第48号

日刀保主催の二〇一九年度「現代刀職展」は二会場で開催

公益財団法人日本美術刀剣保存協会主催、二〇一九年度「現代刀職展」の表彰式が七月五日、刀剣博物館で挙行された。

従来の「新作名刀展」と「刀剣研磨・外装技術発表会」は昨年度から表記の名称で合同開催となり、刀職者がそれぞれの技を切磋琢磨する機会となっている。

今年度の入賞者は下記の通り。なお、同展は次の二会場で開催される。

七月六日㈯～八月十八日㈰
刀剣博物館＝墨田区横網一－二－九
☎〇三－六二八四－一〇〇〇

十一月七日㈭～十一月二十八日㈭
致道博物館＝山形県鶴岡市家中新町一〇－一八　☎〇二三五－二二－一九九

■作刀の部
太刀・刀・脇指・薙刀・槍の部
［高松宮記念賞］北川哲士
［薫山賞］髙見一良
［寒山賞］小宮治氣
［公益財団法人日本美術刀剣保存協会会長賞］加藤政也　髙橋祐哉
［努力賞］小宮早陽光　加藤賀津雄　森國利文　金田達吉　吉田政也　月山一郎　山下浩郎　新保基治　曽根寛　宮城朋幸　木村光宏　松川隆

短刀・剣の部
［優秀賞］安藤祐介
［努力賞］田中諭　松川隆　加藤政也　髙羽弘宗　新保基治　伊藤重光　岡本克博

■刀身彫の部
［薫山賞］片山恒
［寒山賞］柏木幸治
［努力賞］入江万里　柳村将之

■彫金の部
［薫山賞］川島義之
［優秀賞］福興裕毅
［努力賞］柳川清次　伊藤桂子　大川千光　山口石根

■研磨の部・鎬造りの部
［木屋賞］松村壮太郎
［竹屋賞］平井隆守
［千葉賞］諸富剛
［薫山賞］神山貴恵
［寒山賞］柏木良
［優秀賞］細越敬喜　塚本浩之　多田芳徳　菊池真修　藤代龍哉　是澤光昌
［努力賞］松尾清健　玉置城二　井上聡　小川和比古　小宮光敏　相良雄一　各務弦太　真津仁彰　米倉晴義

■研磨の部・平造りの部
［優秀賞］玉置城二　平井隆守
［努力賞］柏木良　各務弦太　細村正勝　阿部義貞

■白鞘の部
［優秀賞］久保純一　永洞修
［努力賞］秋山登　塚本剛之

■刀装の部
［優秀賞］久保謙太郎
［努力賞］伊藤俊克　山田真也

■柄前の部
［日本美術刀剣保存協会会長賞］飯山隆司　久保純一
［優秀賞］久保謙太郎　山田真也
［努力賞］奥原勁士朗　橋本幸律　出口智之

■白銀の部
［優秀賞］宮本恒之　三島幹則
［努力賞］中村晋也　上野宏樹

特賞受賞者の皆さん

刀文協主催「日本刀の匠たち」に新たに文部科学大臣賞

公益財団法人日本刀文化振興協会・坂城町鉄の展示館・坂城町主催、信濃毎日新聞社共催、経済産業省・文化庁・長野県ほか後援の「日本刀の匠たち―第十回新作日本刀 研磨 外装 刀職技術展覧会」は五月十八日㈯～八月二十五日㈰、坂城町鉄の展示館（長野県埴科郡坂城町坂城六三一三－二 ☎〇二六八－八－一一二八）で開催されているが、五月二十五日㈯、坂城町中心市街地コミュニティーセンターにおいて授賞式が挙行された。

初めに主催者を代表して吉原國家理事長から、次いで坂城町町長で鉄の展示館山村弘館長、重要無形文化財保持者（彫金）桂盛仁氏より挨拶があった。

次に運営委員長・宮入小左衛門行平専務理事の経過報告の後、表彰に移り、今回初交付の文部科学大臣賞には研磨部門から永田吉政氏が選ばれた。なお、功労賞の原沖光刀匠は島根県隠岐の島にお住まいで、永年にわたる作刀について宮入専務理事より説明があった。

記念図録のお問い合わせは全日本刀匠会ネットショップ https://tousyoukai.shop-pro.jp/まで。

受賞者は次の通り。

会期中、さまざまなイベントも企画されている。（伊波賢一）

文部科学大臣賞を受賞した水田吉政氏（右）と吉原理事長

［金賞第一席］上山陽三
［金賞第二席］根津啓
［金賞第三席］安達茂文
［銀賞第一席］月山一郎
［銅賞第一席］吉田政也

刀身彫刻
［金賞第一席］河内一平
［長野県知事賞］明珍裕介

■作刀・刀身彫刻部門
作刀
［経済産業大臣賞］阿部聡一郎
［日本刀文化振興協会会長賞］木下宗憲

■研磨部門
［文部科学大臣賞・公益財団法人日本刀文化振興協会会長賞］水田吉政
［信濃毎日新聞社賞］本阿彌毅
［金賞第一席］阿部聡一郎
［金賞第二席］倉島一
［銀賞第一席］國上涼
［銀賞第二席］藤川二朗

■刀装部門
刀装具
［公益財団法人日本刀文化振興協会会長賞］福興裕毅
［金賞第二席］川上登
［銀賞第一席］ジェフ・ブローデリック

白銀
［坂城町教育委員会教育長賞］松本豊
［金賞第二席］平田実
［銀賞第一席］杉山英明

白鞘
［坂城町長賞］古川和幸
［銀賞第一席］森井敦央

柄巻き
［金賞第一席］遠山和康
［銀賞第一席］平井重治

鞘塗り
［金賞第一席］小山光秀

■第四回特別公開部門〝Sword Oshigata Art〟
［優秀賞第一席］阿部聡一郎
［優秀賞第二席］三浦弘貴
［優秀賞第三席］長津祐介
［優秀賞第四席］片岡澄夫

古銭・切手・刀剣 売買 評価鑑定
㈱城南堂古美術店
代表 田中 勝憲
〒153-0051
東京都目黒区上目黒四－三－一〇
TEL ○三－三七一〇－六七七六
○九〇－三二〇八－九六一二
FAX ○三－三七一〇－六七七七

日本刀 販売 買取 委託
e sword イソード
㈱e-sword（イーソード）
平子誠之
〒350-1115 埼玉県川越市野田町 1-4-19 1F
TEL 049-246-6622 FAX 049-246-1407
http://www.e-sword.jp
日本刀 イーソード 検索
mail:info@e-sword.jp

甲冑の話題――❷

日甲研の通常総会・見学会のご案内

（一社）日本甲冑武具研究保存会

今回は一般社団法人日本甲冑武具研究保存会（以下「日甲研」）の本部月例研究会（例会）の内容を簡単に紹介します。

日甲研では、ほぼ毎月例会を開催しています。扱うテーマはさまざまで、例えば実際に甲冑のパーツ類（兜・袖等）を会員で持ち寄って行う勉強会のほか、甲冑以外のジャンルの専門の講師を招いての勉強会も行うことがあります。

この半年間ほどで扱ったテーマの「和式乗馬の特異性と鐙装着の歴史的変遷」「厳島神社所蔵の甲冑銘文について」「烏帽子形兜」「大袖から変わり袖まで」「旗・袖印持ち寄り研究会」は、当会の会員が講師を務めました。

このほかに外部から講師を招いたものとして「西洋甲冑入門―歴史的変遷と構造」奥主博之氏（西洋甲冑武器研究家）、「たたら製鉄と日本刀」黒滝哲哉氏（公益財団法人日本美術刀剣保存協会学芸部たたら・伝統文化推進課長）があります。また、日甲研の近畿支部や東海支部でもセミナーや勉強会を随時開催しています。

例会での講演と展示

例会のテーマは随時、日甲研のサイトでお知らせしておりますので、ご興味があるようでしたらぜひご覧になってください。

ちなみに七月は東京国立博物館での特集展「親と子のギャラリー日本の鎧！」の見学会になっています。博物館でさまざまなものを見学しながらの月例研究会となりますので、気軽にご参加いただき、当会会員と情報交換や交流の機会を持つキッカケにしていただければと思います。月例研究会への参加費用は、非会員の方は二千円となります。

また初心者向け講座として、当会常務理事・菅野茂雄による講座（よみうりカルチャー錦糸町）や、こはぜ会（若手会員のグループ）による講座も随時開催されていますので、日甲研のサイトをご覧ください。

いきなり例会への参加が躊躇される方は、初めにこのような講座に参加してみるのも面白いのではないかと思います。

（一般社団法人日本甲冑武具研究保存会評議員・佐々木亮）

全国美術刀剣青年会が大会を開催

五月二十六日、栃木県宇都宮市のホテルニューイタヤにおいて全国美術刀剣青年会の大会が開催されました。今年は笠原崇弘代表幹事の下、晴天にも恵まれ、非常に活発な交換会となりました。

刀剣青年会は全国美術刀剣会において若手が会のシステムを理解し、これからの刀剣界を背負っていける人物を育てるという目的で始まっています。

その狙い通り、セリ発句から伝票書き、会計、受付、宿泊手配など細かい部分まで会員が役割を分担して行います。

これはとても大切なことで、百聞は一見に如かず、やらないとわからないともたくさんありますし、問題も出てきます。それを皆で協力し乗り越えることで、若手の結束も強くなっていきます。

会は盛況で、四千九百万円の出来高となりました。苦しい時期があった青年会を温かく見守り応援してくださったOBのおかげであることを一同が理解し、それぞれが今後の刀剣界に恩返ししていくことに意味があるだろうと、皆が感じる会になりました。

会の後の宴会も盛り上がりました。この日、笠原代表幹事の父上、泰明氏の喜寿の誕生日ということもあり、皆でお祝いし、非常にアットホームな雰囲気のうちにお開きとなりました。（土肥富康）

青年会大会の交換会風景

令和元年７月15日発行（隔月刊）　刀　剣　界　第48号

「登録証問題」を考える⑲

事例㉙

「登録は、昭和二十六年三月の東京ですね」

「えっ、ってことは、大名家から出たのでしょうか！」

「さあ、どうでしょうか。いずれにせよ、お武家から出たんでしょうねえ」

よくある会話である。

銃砲刀剣類等所持取締令の施行に伴い、美術的刀剣類等の登録審査が翌二十六年から始まったことは周知のことである。ところが、今回、さらに古い年月日の登録証が見つかった！　東京都の登録証に、「昭和廿四年参月廿壱日発行」とブルーのスタンプが押してある。驚愕した。

しかし、もちろん、これは間違いである。所持者は、「これは昭和二十六年と東京都に確認し、私、所有者変更届出書を提出し、受理されているようです」。心配そうな口調で答えた。

念のため、東京都に電話をかけて、確認してみた。

「読み上げます、種別脇差……発行年月日は昭和二十六年三月三十一日です」「はい、合ってます」

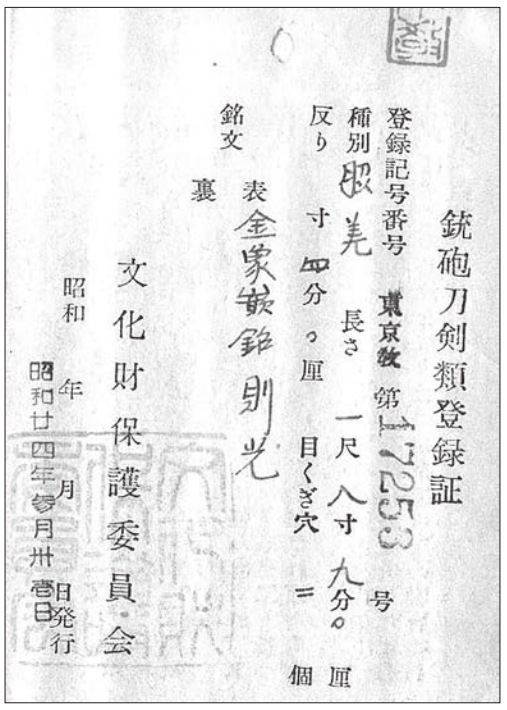
これは昭和二十六年とするべきところを、誤って昭和二十四年としているのだった。

東京都は「初年度登録の場合、間違いがありますので、コピーを添えて所有者変更届出書をご提出いただければ結構です」と回答して受理することが多い。しかし、これが他県の場合、必ずしもそうではない。例えば愛媛県からは、現物確認を要請された。ほかにも「頑として受け付けない」という県は少なくない。

それにしても、当時、登録事務の人はどうして確認をしなかったのだろうか。一方の登録証を受け取った人も、発行年が異なることに気づかなかったのだろうか。昭和二十六年三月、膨大な数の刀剣が審査に出、登録業務がいかに大変だったかは十分想像できる。が、それにしても、である。

今日は大丈夫かというと……決してそうではないことは、読者の皆さまもご存じのことと思う。実は、筆者は登録事務の手続き上の手違いで、誤記された経験を、つい先ごろしたばかりなのだ。

平成四年に熊本県が発行したその登録証には「肥〇〇〇」「明治二年」とあった。確かに茎の銘字は判読しにくかった。


銃砲刀剣類登録証
登録記号番号　東京教　第17253号
種別　脇差　長さ　一尺八寸九分〇厘
反り　寸四分〇厘　目くぎ穴　二　個
銘文　表　金象嵌銘　別光
裏
文化財保護委員会
昭和　年　月　日発行
昭和廿四年参月廿壱日

「昭和廿四年」の登録証

が、それでも「肥後同田貫宗廣」「明治三年□月日」と読み取れた。これでは将来の所持者に申し訳ないので、熊本県に連絡し、所定の手続きを経て、東京都で現物確認に及ぶこととなった。

現物確認審査で、登録審査委員の先生は、刃長、反り、目釘穴の数……そして銘文は「肥後同田貫宗廣」と判読。年紀は「明治三年□□□」。筆者は、登録審査委員の先生の計測から、目釘穴の数、銘文の読み取りまで、その一部始終を注意深く見ていた。

熊本県へ回答する調書は「登録証は『肥〇〇〇』とあるが現物は『肥後同田貫宗廣』……一致せず、しかし訂正交付は可能」と書いていた。刀が救われた、と筆者は思った。

ところが、後日、熊本県から送付された待望の登録証は「肥前国同田貫宗広」となっていた。土曜日で電話では確認できなかったので、誤記のことを書いたファクシミリを送付した。

翌週、熊本の担当者から連絡があった。

熊本県「東京都からの報告には『肥後国同田貫…』とあったので、おや、おかしいなとは思いましたが」

私「東京都の現物確認の際、長さと銘文の控えを手に見ていました。『肥後同田貫宗広』と読んでいました」

熊本県「では東京都に私どもから確認をしてみましょう」

熊本県から後日、連絡があった。

「東京都の担当者が登録審査委員にお尋ねしたところ、『肥後国ではなく、肥後同田貫と書いた。国は書かなかった』と確認されました。正しく書いた登録証を再度交付します」。ほっとした。

登録審査委員の先生は、何がどう相違し、登録証と現物は一致するのか、しないのか、訂正交付、再交付か、調書を書いている。それを東京都から熊本県に、のまま送付すれば、読み取られ通りに登録証は交付されたはである。何がどうしてどうなる、今回のようなことが起こるのろう。何とも腑に落ちない話でった。

東京都の登録事務職員は、登録審査委員の書いた報告書を基に、本県提出用の書類を作成して送しているのだろうか。その際、文を誤記し、現物の銘文とは異る登録証が発行されたのだとしら……問題である。

今回、現物確認から幾日も経てなかったため、登録審査委員がう判読したのか記憶していたの事なきを得た。

が、これがあいまいだったら一どうなったのだろうか。東京都は登録審査に当たり、茎の写真影を行っていない。となると、度、現物確認に行かなくてはならなかったのだろうか。

また、今回は到着した登録証を認したからわかったが、刀に詳くない人だったら、あるいは確しないかもしれない。

数年後、売却しようと刀剣店を訪れた際に、「登録証と現物の銘文が異なります」という事実があるためて判明し、やはり、とても困ったことになっただろう。

「昭和二十四年」交付の登録証は、発行されてから実に七十年近くの間、そのままだった。人間だもしも間違いはする。少年期の筆者も「不注意につける薬なし！」と親たちに何度言われたかわからいし、今でも相変わらず粗忽である。

しかし、登録証の簡単な間違い、決して容易には訂正できない。手続きは煩雑で時間がかかる。何とも、笑えない話である。

（登録証問題研究会）

刀剣商リレー訪問㉙

綱取譲一さん（福隆美術工芸）

レトロな古民家から八丁堀へ移転

甲冑販売で定評のある福隆美術工芸（綱取譲一代表）が四月十五日、店舗を中央区八丁堀に移転オープンしました。

通行人の目を引いた銀座二丁目のレトロな旧店舗から、昭和通りを日本橋に向かい直線距離で約一キロ。古美術店が居並ぶ京橋の宝町歩道橋から八丁堀方面に向かって程なく、材木屋やお地蔵さまなど昔の名残が漂う閑静な土地柄です。

福隆美術工芸は、画家を志した初代綱取保次氏が自身の雅号「福隆」を付けて昭和四十三年に創業。同五十八年、父である初代の急逝を受け現二代目が弱冠二十一歳で継いで早三十七年。

旧店舗は近代建築百選にも選ばれた昭和の木造建築でした。しかし、耐震強度やら地域再開発やらに抗うことはできず、創業から五十一年目の移転となりました。

新店舗は床面積こそ狭くなったものの、高い天井にはシーリングファン（天井扇風機）とロフト（中二階）が備えられ、壁棚や壁掛けを効果的に用いて機能的な造りにしています。

「新天地で親切な方々とのご近所付き合いに触れながら、新たなスタートを切り、引っ越しからようやく落ち着きました。これから銀座の賑わいから離れ、古美術に関心ある人たちが足を運ぶ店にしたい」

と、八丁堀のジョーちゃんは張り切っています。

（松本義行）

■福隆美術工芸＝〒一〇四-〇〇三一　東京都中央区八丁堀三-一-三　飯野ビル一階　☎〇三-六二八〇-四九八七　営業時間十一時～十八時三十分

ロゴマークの三日月は伊達政宗の兜の前立てから

野田会大会はおなじみの筑波山麓で

新緑の薫る四月十九日、筑波山江戸屋において野田会の大会が開催されました。

野田会は美術刀剣松本の松本富夫さんが昭和六十二年、地方の刀剣商の商売を活発にしたいと千葉県野田市のお店で始めた会で、現在は子息の義行さんが跡を継ぎ、親子二人で会を切り盛りしています。三十周年の記念大会を筑波山で開いたところ好評で、それから同じ会場で毎年大会を開き、今年で三回目となりました。

いつもの野田会同様、開会の十五分前になるともう全員が席に着き、早く始まらないかと臨戦態勢。ほぼすべての人が商売をして帰られます。非常に熱気があり、またとても和やかな雰囲気です。それも会主の松本富夫さん・義行さんの人柄のせいだと感じました。

会場には重要刀剣や地元に根付いた名品がたくさん出品され、終了予定時間を大幅に超過する盛況ぶりで、過去最高の出来高を更新したとのことです。

終わった後の宴会も、ビンゴゲームにおいしいお酒で会に負けず盛況だったことを付け加えておきます。

（土肥富康）

盛会だった野田会の筑波大会

銀座日本刀ミュージアム
泰文堂
〒104-0061 東京都中央区銀座６-７-16 岩月ビル２階
㈱銀座泰文堂　代表 川島貴敏
TEL 03-3289-1366
FAX 03-3289-1367
http://www.taibundo.com

美術日本刀・鐔・小道具・甲冑
日本の伝統文化を彩る
JAPAN SWORD CO., LTD.
㈱日本刀剣
伊波賢一 Ken-ichi Inami
〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-8-1
TEL 03-3434-4321
FAX 03-3434-4324

㈱美術刀剣松本
松本富夫
義行
〒278-0043　千葉県野田市清水199-1
TEL 04-7122-1122
FAX 04-7122-1950
www.touken-matsumoto.jp

刀剣・小道具・甲冑武具
目白 飯田高遠堂
代表取締役 飯田慶雄
〒161-0033
東京都新宿区下落合3-17-33
TEL 03-3951-3312
FAX 03-3951-3615
http://www.iidakoendo.com

アオバ企画㈱
高橋一
〒130-0012
墨田区大平四-一九-二-一三〇八
TEL 〇三-三六二二-二三三一
FAX 〇三-三六二二-二二五一
メール aobakk@pj8.so-net.ne.jp

令和元年７月15日発行（隔月刊）　刀　剣　界　第48号

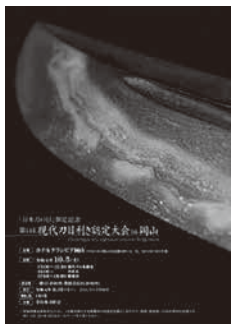
第1回「現代刀目利き認定大会in岡山」を10月に開催

昨年、全日本刀匠会は10月４日（とうしょうの語呂合わせ）を「日本刀の日」記念日に制定しました。令和元年の今年、この記念日をさらに多くの方に知っていただくために、下記の通り、第１回「現代刀目利き認定大会in岡山」を開催します。

認定方法は、約30振の現代刀と作者を結びつける形での入札鑑定（解答記入）となります。成績優秀者へは、全日本刀匠会から「現代刀目利き認定証」および賞品として「刀鍛冶製作の小品」を贈呈します。現代刀の鑑定に自信のある方、刀職者の方、現代刀に興味を持ち始めた方など、多くのご参加をお待ちしています。

10月の認定大会までに、各地で現代刀の展覧会が開催されます。勉強次第では初心者の方の最優秀賞も夢ではありません。多くの方が参加し、「初代最優秀現代刀目利き」を目指していただきたいと考えています。

参加ご希望の方は、ホームページから申込書をダウンロードの上、必要事項をご記入の上お申し込みください。当日は初心者講習を行います。刀のお取扱いに不安のある方はご参加ください。（全日本刀匠会）



会　　場：ホテルグランヴィア岡山
〒700-8515 岡山市北区駅元町1-5
☎086-234-7000
期　　日：令和元年10月５日㈯
参 加 費：一般12,000円　賛助会員10,000円
募集人数：100人（高校生以上、18歳未満は保護者の承諾必要）
定員になり次第締め切り
詳しくは、http://www.tousyoukai.jp/

ブック・レビュー　BOOK REVIEW

戦術に勝って戦略に敗れた勝頼、高天神城の攻防

『軍事の日本史―鎌倉・南北朝・室町・戦国時代のリアル―』

本郷和人 著　朝日新聞出版　定価八七五円（税込）

本郷和人氏の著書である『軍事の日本史』を読んでみた。

本郷氏は東京大学史料編纂所の教授なのだが、学部や大学院で教える大学教授とは違って、古い資料の中でもとりわけ学問的価値の高い古文書や古記録を、現代人にも読めるように句読点を打ったり、読み下したり、関連する史料も掲げてそのデータをまとめるのが主な仕事です。

学生に向けて講義したり、ゼミを開くといった教育的な仕事はしないのです。しかしながら、著書も多いし、テレビにもよく出ている。「英雄たちの選択」の磯田道史氏の次に出ていると言っていいくらいです。

著者の紹介はこれぐらいにして、『軍事の日本史』の紹介をしなければなりません。

「少人数で大部隊に勝て」「奇襲攻撃をよしとせよ」といった、太平洋戦争前の軍事研究にはある種の物語性（ロマン）が持ち込まれていた。しかし、重要なのは歴史観に左右されない史料分析と科学的思考に基づく軍事研究であるという主張の下、戦いを六つの要素に分けていきます。

①戦術、②戦略、③兵站（いたん）、④兵力、⑤装備、⑥大義名分、です。

この中で戦術と戦略について、武田勝頼の高天神城の戦いを例として取り上げている。

天正三年（一五四七）甲斐国の武将、武田信玄の息子勝頼が、駿河国と遠江国の国境近くにある高天神城という山城を落とした戦いがありました。高天神は守りやすく、相手側からすると攻めるのが非常に難しい城でした。ここは徳川家康の武将が遠江支配の重要拠点として守っていた場所ですが、戦上手の父信玄も落とせなかったこの城を攻め落とすことに成功する。この局地的な戦いで、確かに勝頼は勝利を収めました。

では、そもそも勝頼がこの戦いを挑んだ目的は何だったのか―。

駿河はもともと武田領であって、遠江は徳川領でした。その徳川領の中に高天神城は位置しているから、これを落とすのは「徳川領を侵略する」ということ、すなわち「家康の遠江支配にくさびを打ち込んだ」という点で見れば、この戦いは武田勝頼の勝ちです。

けれども、それを戦略的に見るとどうなるか―。高天神城は山城であり、経済的利益にはなりません。周辺には豊かな耕地もなく、経済流通路を押さえることもなかった。しかしながら、信玄が落とせなかった城を落としたことで勝頼は「織田・徳川恐るるに足らず」と慢心し、この戦いに続く長篠の戦いで織田・徳川軍を見くびるきっかけになったのかもしれません。

長篠の戦いに敗北したことで、攻撃しづらい高天神城が武田の城として生き残り、孤立するのは自明のことでした。そして高天神城を織田・徳川軍が攻めた時、救援の部隊（後詰（ごづめ））を送らず、見殺しと言われても仕方のないことをしています。これが「高天神崩れ」と言われる出来事です。

高天神崩れは、武田氏の威信を致命的に失墜させる戦いとなりました。武田氏の滅亡は、高天神城落城後、わずか一年なのです。

高天神城を取ったことで、武田家と言うより、勝頼が得たものは果たして何か、失ったものは何か。

戦術的には勝ったが、戦略的には負けであり、滅亡につながる戦いだったのです。

繰り返しになりますが、こういった戦争というものを六つの要素から研究し、実践例も数多く取り上げている。まさに史料分析と科学的思考に基づく軍事研究であろう。と言うと、何だか難しそうだが、小生でさえ楽に読める新書版なので、ご一読ください。（持田貝宏）

ジョーちゃんの健脚商売 24

栃木県宇都宮市 編

先頭に出た若かりしころの筆者（左端）

今回は全国美術刀剣青年会の宇都宮大会の報告。なぜこのコラムで？　そういわずに読んでくれ。

笠原崇弘代表幹事以下現役会員たちは皆、この会をもって競売の仕組みを学んでいこうという強いモチベーションを感じさせる。そしてOBや会友への歓待も…。

ちょっと待て、会場がホテルイタヤ。昨年、冷房がショボくて辛かったあの会場と同じ部屋を選ぶとは！　しかも、この日の宇都宮の最高気温は五月とは思えない34度！　なぜここを東京出身の笠原代表幹事が選んだのか、深〜い意味がありそうだね。

帰りたいのに帰れなかったわけは、このコラムで取り上げてみたかった鐔が出品されていたのだ。

俺が自転車競技に興味を持ったのは遅く、二十代のころ。当時、NHKがフランスの国営放送のツール・ド・フランスの実況をBSとスポーツコーナーで茶の間に届けた。香田キャスターが「ベルナール・イノーとグレッグ・レモン、小松投手にエースの座を譲る星野さんみたいですね」と振られた星野仙一さん、「てへへ」とか意味がわからない様子。

中でも、選手集団が町の周回型交差点で左右に分かれては出口で再度合流するヘリコプター映像は美しく、無数のマガンの飛来を想起させた。

そう、気になる鐔の画題は雁の飛来なのだ。V字飛行する数羽の先頭の雁の嘴には書簡が表現され、待ちわびた季節の便りか恋人への思いを運んでいる。

作者は庄内金工の遊洛斎赤文。森羅万象のほか、洒脱な表現をされた動物も多い。同じ鳥類の千鳥はワンタンと見まがう表現だが、この四角い鐔の中の雁は具象的で、多くの会員、OBらの注目を集めていた。

再び自転車競技だが、V字の渡り鳥たちと同じように数名一組での走行で競う競技がある。団体パシュートと団体タイムトライアルだ。どちらも司令塔選手を含め先頭を疲れる前に交代し、空気抵抗を受けるリスクを分散させ速度を落とさない。これにより個人タイムトライアルより速度を増すことができる。

一方、渡り鳥たちの両翼の端には上昇気流が生じ、後ろの鳥がそれを利用するからV字になるという。彼らから俺たちサイクリスト、いや刀剣商も同じだが、学ぶべきものはチームワークに他ならない。

上昇気流同様、前人たちが残す勢いは減力させてはならない。ベタな言い方だが一人のための全員、全員のための一人、これだろう。（綱取譲一）

私が出会った珍品・逸品

久古堂 誌

変わり拵

この拵、何の変哲もなさそうに見えますが、実は鞘に仕掛けがあります。内側に竹で作った樋があり、二分金が片側に十四枚ずつ、計二十八枚、金額にして七両が入るようになっているのです。

徳川幕府の貨幣制度では、大判は十両で、金四四匁（一六五グラム）。家臣への恩賞用、朝廷・公家への贈答用などとして後藤家が鋳造した特別な貨幣でした。

小判一両は四分、一分は四朱、一朱は二五〇文です。今の金額にして一両を八万円とすると、七両は五十六万円になります。

この打刀拵は、和紙に漆塗りの柄巻きを施し、黒と茶の笛巻鞘と、なかなかしゃれたものです。豊後国岡藩（竹田藩とも。現在の大分県竹田市）七万石、中川家に伝わったもので、中川柏紋、中川クルスの家紋が栗形・返り金に入っています。

なお「荒城の月」（土井晩翠作詞・瀧廉太郎作曲）は、瀧が幼少期を当地で過ごしたことから、岡城（豊後竹田城）にゆかりの曲とされています。

雁書図鐔　銘　遊洛斎赤文（花押）
行年七十六翁

催事情報

会場によって休館日・開館時間が異なります。事前に確認の上、お出かけください。

■備前長船刀剣博物館

〒701-4271　岡山県瀬戸内市長船町長船966　☎0869-66-7767
http://www.city.setouchi.lg.jp/token/

特別展「備前刀×美濃刀―長きに続く日本刀の聖地」

岐阜県関市を中心とした地域と岡山県瀬戸内市を中心とした地域は日本刀の生産地として有名で、500年以上日本刀を作り続けているまちは他にありません。かつては「東の美濃、西の備前」と呼ばれ、全国屈指の日本刀生産地として名を馳せていました。

関市が所蔵する美濃刀と本館が所蔵する備前刀を中心に、約40口の作品を展示予定。兼元や兼定などの関の名工たちの作品と、景光や盛光などの備前の名工たちの作品を並べ、対比します。

会期： ７月13日(土)～９月８日(日)

■岐阜県博物館

〒501-3941　岐阜県関市小屋名1989（岐阜県百年公園内）　☎0575-28-3111
http://www.gifu-kenpaku.jp/

特別展「剣精霊貫白虹（けんのせいれいはっこうをつらぬく）―幕末美濃の剣豪と名刀―」

岐阜県博物館では今夏、幕末をテーマに、刀剣と激動の歴史群像を取り上げた特別展を開催します。特に美濃の剣豪・横倉喜三次（1824-94）を大きく取り上げます。横倉は新選組局長・近藤勇の処刑に当たった人物です。敵味方に分かれましたが、維新後、近藤の法要を営むなどし、武術の達人として明治半ばまで活躍しました。

今回の展示では、近藤を斬首した「脇指　銘　二王」（二王清綱）など横倉家資料をはじめ、大垣藩を官軍側に導いた小原鉄心、新選組・赤報隊に参加した博徒・水野弥太郎、江戸無血開城に奔走した山岡鉄舟、井上馨の命を救った所郁太郎、新選組の生き残り・島田魁等々、有名無名の志士・勤王家たちを取り上げます。

併せて、幕末の名工・源清麿、美濃出身の源正雄、美濃刀工の雄・御勝山永貞などの作刀による同時代の新々刀も多数展示し、歴史資料とともに幕末維新動乱期の息吹を感じられる必見の展覧会となっています。ぜひ、ご来場ください。

会期： ７月12日(金)～９月８日(日)

■岩国美術館

〒741-0081　山口県岩国市横山2-10-27　☎0827-41-0506
http://www.iwakuni-art-museum.org/

肥前刀展＋香月泰男展

肥前刀の祖と言われる初代忠吉から七代忠広までの全12振を展示しています。また、萩焼を支えた絵師・香月泰男の作品を多数展示しております。

会期： ６月11日(木)～８月18日(日)

■森記念秋水美術館

〒930-0066　富山市千石町1-3-6　☎076-425-5700
http://www.mori-shusui-museum.jp/

「野口哲哉展」鎧ノ中デ―富山編―

野口哲哉は樹脂やプラスチックといった現代的な素材を駆使して、リアルな彫刻や絵画を作る現代美術家です。その大きな特徴は、作品の人物全てが「鎧兜」を着ていること。しかし、手のひらほどに縮尺された彫刻や、古画と現代文明が交錯するような不思議な世界観は、私たちが連想するステレオタイプの武士像とは大きく異なります。

重厚な主題を扱う時も常にユーモアを忘れない野口の姿勢は、新しいタイプの現代美術として広く脚光を浴びています。この度は、そんな野口哲哉の作品を多数集めた北陸初の本格的な個展です。

富山の地で触れる、新体験の現代美術を是非お楽しみください。

会期： ６月８日(土)～８月25日(日)

■新宿髙島屋

〒151-8580　東京都渋谷区千駄ケ谷5-24-2　☎03-5361-1111
https://www.takashimaya.co.jp/shinjuku/

ヱヴァンゲリヲンと日本刀展 EVANGELION ARTWORK SELECTION

この度、新宿髙島屋では「ヱヴァンゲリヲンと日本刀展 EVANGELION ARTWORK SELECTION」を開催します。2007年より全４部作として劇場公開中の『ヱヴァンゲリヲン新劇場版』シリーズをモチーフに、全国の刀匠が制作したオリジナルの逸品を堪能できる「ヱヴァンゲリヲンと日本刀展」の約６年ぶりとなる東京凱旋展覧会です。

本展では、同じく全国を巡回する人気の展覧会「エヴァンゲリオン展」の中から、特に貴重な原画約200点を「EVANGELION ARTWORK SELECTION」として特別展示します。2020年に公開を予定している最終作『シン・エヴァンゲリオン劇場版』を前に、あらためてエヴァンゲリオンの魅力を重層的に楽しめる貴重な展覧会です。

会期： ８月30日(金)～９月９日(月)
会場： 11階特設会場

GHQ返還品、関市への譲渡最多

「赤羽刀」刀都に託す

県含め648本　修復態勢　評価

戦後、連合国軍総司令部（GHQ）が没収し、後に全国の自治体や博物館などに譲渡された日本刀「赤羽刀」。合計3209本に上るが、文化庁によると、譲渡先の中で関市が全国最多の480本を所有している。岐阜県（県博物館）も168本を所有し、両者の合計は全国でも突出している。市内には刀作りの各工程の職人がそろい、修復作業が可能なためだ。刀剣ブームが続く中、関市は修復した赤羽刀を市内外で展示し、刀の産地であるとともに修復能力も高い「刀都」の名をPRしていく。（田島豪人）

赤羽刀　終戦後、連合国軍総司令部（GHQ）が日本人の武装解除の一環として多くの刀剣類を没収した。多くは海外に流出したり廃棄されたりしたが、その他の刀剣類は東京・赤羽にあった米軍施設で保管された。美術的な価値の高い刀剣は日本に返還された。米軍施設の所在地から「赤羽刀」と呼ばれる。一部は所有者に返還され、それ以外の3209点は自治体や博物館に譲渡された。

関市が所有している赤羽刀。まだ修復作業前のため、ところどころにさびがある＝関市桜本町、市文化会館

赤羽刀はGHQが日本に返還した後、展示・公開を目的として全国の自治体や博物館に1999年に譲渡された。関市に譲渡された赤羽刀は大部分が美濃（県内）産だが、県外で作られた刀も含まれる。多くは室町～江戸時代に作られた。

関市に全国最多の赤羽刀が譲渡されたことは、刀都にとって面目躍如だ。職人や日本刀愛好者らでつくる関伝日本刀鍛錬技術保存会の井戸誠嗣相談役は「日本刀本体を作る刀匠が多数いる自治体は他にもあるが、関には刀匠以外の工程の職人がそろっており、日本刀作りの作業を一貫して行える環境がある」と理由を語る。

保存会には、刀身を研ぐ研師、刀身以外の金属部分の加工を施す白銀師、鞘を作る鞘師といった日本刀作りのさまざまな工程を担う職人24人が所属しており、市内で修復作業を完結できる。譲渡された段階の赤羽刀は、保存処理がなされているとはいえ、かなりのさびが付き、公開して鑑賞できる状態ではない。刀職人らの手により、市は昨年度までに約140本を修復。本年度も6本を修復する方針だ。市によると、修復本数も全国最多という。

また、修復作業を担うことで、技術の維持や上達につながる利点もある。関の職人は県外からの赤羽刀の修復依頼も受けている。今後、修復が済んだ赤羽刀は市内だけでなく、市外にも展示用に貸し出す方針。市の担当者は「関の刀自体と、製造や修復技術の双方を知ってもらえる」と意義を強調する。

一方、県博物館（関市小屋名）は昨年度までに赤羽刀を合計39本、特に昨年度だけで10本を修復した。うち1本（脇差し）は美濃の刀工の作。修復には、県博物館が昨年開いた赤羽刀の展示会の際に募った寄付金約20万円を充てた。修復を担ったのも関の職人だった。県博物館の長屋幸二さんは「関に職人がそろっている点が、収蔵品の修復にとってもありがたい」と話す。この脇差しを23日まで公開している。本年度も10本程度の修復を行う方針だ。

失われる可能性もあった文化遺産である赤羽刀。関の刀職人が地道に復元に努め、次代に伝えている。

募金で修復された赤羽刀（脇差し）＝同市小屋名、県博物館

『岐阜新聞』令和元年６月16日

浜田兄弟の文明開化

刀鍛冶から神田の自転車店へ

江戸末期の刀鍛冶で、明治期に自転車店などに転身した旧貝取村（現多摩市）出身の兄弟の軌跡をたどる特別展「刀鍛冶と文明開化」が、同市落合のパルテノン多摩歴史ミュージアムで開かれている。市内を通る2020年東京五輪・自転車ロードレースのコースにも触れ、多摩市と自転車の関わりの今昔を伝える。　（松村裕子）

多摩市出身の刀鍛冶と自転車との関わりを紹介した特別展＝いずれも多摩市で

多摩市の博物館　軌跡たどる特別展

兄弟は刀鍛冶浜田助左衛門の次男吉之（一八三四～九六年）と三男正行（一八四三～一九一三年）。新選組の武器を作るなど幕末まで刀鍛冶として活躍した。

明治に入り正行は米国のサンフランシスコに渡る。帰国後、横浜居住の欧米人も参加した自転車遠乗り会で世話人を務めた。一八九七年には、東京・神田に練習場付きの自転車店を開き、米国製自転車を販売。店は次男清次郎（一八六八～一九二四年）が継いだ。

兄弟が作った刀剣

清次郎のひ孫の秀隆さん（五三）＝川崎市高津区＝は三年前に先祖が刀鍛冶と知って調べ始め、特別展の開催にも協力した。秀隆さんは「偉大な先祖たちで感慨深い。自分も自転車が好きで、血を受け継いでいるのかも」と話す。

一方の吉之は原町田（町田市）で、農具を製作する「乞田鍛冶屋」を開業。農具にヒョウタンが刻印されたため「ひょうたん鍛冶」として知られた。自転車とは、吉之の長男久作（一八六一～一九三四年）が店を継いだ後、店関係者が地元の自転車愛好会に関わったゆかりがあるという。

特別展では、二人が鍛造した日本刀や、明治期の自転車など約百五十点を展示。入場無料、七月十五日まで（六月十二、十三日は休館）。

「東京新聞」令和元年６月１日

令和元年（2019）盛夏

暑中お見舞い申し上げます

掲載は申し込み順です

刀剣・小道具・鐔 刀剣杉田
代表 杉田侑司
豊島区池袋2-49-5
TEL 03-3980-1461
FAX 03-3980-1463
メール info@token-net.com

つるぎの屋
冥賀吉也
冥賀亮典
東京都北区西ヶ原4-35-1
TEL 03-3576-1753
FAX 03-3576-8419

株式会社 舟山堂
稲留修一
東京都千代田区内神田2-4-13 石垣ビルB1
TEL／FAX 03-5297-8144

飯田高遠堂
飯田慶雄
東京都新宿区下落合3-17-33
TEL 03-3951-3312
URL http://www.iidakoendo.com

銀座 盛光堂
齋藤恒
東京都中央区銀座8-11-14 盛光堂ビル
TEL 03-3569-2251㈹
URL http://www.ginzaseikodo.com

銀座日本刀ミュージアム 泰文堂
川島貴敏
〒104-0061
東京都中央区銀座6-7-16 岩月ビル2階
TEL 03-3289-1366
FAX 03-3289-1367
メール taibundo@herb.ocn.ne.jp
URL https://www.taibundo.com

株式会社 刀剣柴田
柴田光隆
〒104-0061 東京都中央区銀座5-6-8
TEL 03-3573-2801
FAX 03-3573-2804
URL http://www.tokensibata.co.jp

刀剣古美術 飯塚
飯塚賢路
〒337-0015
さいたま市見沼区蓮沼1004-1
TEL 048-688-2001
FAX 048-688-2002

銀座誠友堂
中央区銀座5-1 銀座ファイブ2階
TEL 03-3558-8001
URL http://www.seiyudo.com

川越 優古堂
三浦優子
埼玉県川越市新宿町1-9-13
TEL 049-249-0700
FAX 049-249-0702

刀剣 髙吉
代表 髙島吉童
東京都北区滝野川7-16-6
TEL 03-5394-1118
FAX 03-5394-1116
URL http://www.premi.co.jp

㈱永和堂
朝倉万幸
朝倉忠史
長野県長野市南県町1136
TEL 026-228-0001

株式会社 眞玄堂
〒101-0044
東京都千代田区鍛冶町1-7-17
TEL 03-3252-7844
FAX 03-3251-1419
メール info@samuraigallery.com

拵合せ致します
日本刀鞘師 水野美行
〒160-0002
東京都新宿区四谷坂町6-1
TEL 03-3353-8810

銀座長州屋
東京都中央区銀座3-10-4

株式会社 美術刀剣松本
松本富夫
松本義行
千葉県野田市清水199-1
TEL 04-7122-1122
メール info@touken-matsumoto.jp

研誠堂
石塚孝夫
〒113-0034
文京区湯島1-2-1
TEL 080-5473-0055

株式会社 安東貿易
代表取締役 安東孝恭
岡山県岡山市北区清輝橋2-1-32
TEL 086-226-1251
URL http://www.katana-ando.co.jp
刀剣チャンネル
→YouTube

刀剣研師
臼木良彦
〒135-0045
東京都江東区古石場1-2-7
TEL 03-3643-3228

奈良県無形文化財保持者
月山貞利
〒633-0073
奈良県桜井市大字茅原228-8
TEL 0744-43-7330
記念館 42-3230

刀剣・古銭・切手・古美術品 売買
㈱城南堂古美術店
代表取締役 田中勝憲
東京都目黒区上目黒4-31-10
TEL 03-3710-6776
携帯 090-3208-9612

㈱晴雅堂清水
代表取締役 清水儀孝
〒111-0032 台東区浅草2-30-11
TEL 03-3842-3777

美術刀剣 勝武堂
東京都中野区本町4-45-10
TEL 03-3381-3071
URL https://www.shoubudou.co.jp

刀剣・新古美術品
株式会社 宝古堂美術
代表取締役 山田雄一郎
東京都目黒区上目黒1-1-6
TEL 03-3792-0008

㈱日本刀剣
伊波賢一
〒105-0001
東京都港区虎ノ門3-8-1
TEL 03-3434-4321

武蔵国一の宮・美術刀剣・骨董品・居合道・古式銃専門店
有限会社 清水商会
代表取締役 清水敏行
〒330-0802 埼玉県さいたま市大宮区宮町3-7
TEL 048-644-3477
FAX 048-647-7434
URL http://www.surplusleopard.com/

札幌 横山美術
横山忠司
〒060-0053
北海道札幌市中央区南三条東1-6
TEL 011-251-7652
FAX 011-251-1788

日本刀 販売 買取
有限会社 葵美術
代表取締役 鶴田一成
渋谷区代々木1-54-6
TEL 03-3375-5553
メール info@aoijapan.jp
URL http://www.aoijapan.jp

刀剣・書画・骨董
株式会社 和敬堂
土肥豊久
土肥富康
新潟県長岡市柏町1-2-16
TEL 0258-33-8510
FAX 0258-33-8511
URL http://www.wakeidou.com

武家文化の美と心
刀剣ギャラリー 樹林
代表 森野幸男
〒803-0812
北九州市小倉北区室町2-2-15
TEL／FAX 093-561-0449

御刀研磨処楽屋
研師 平井隆守
御刀研磨処楽屋で検索
岐阜県関市清水町
TEL／FAX 0575-25-0928
メール onkatana@d6.dion.ne.jp
URL http://www.h4.dion.ne.jp/~katanaka/

刀剣販売、月二回全国で展示即売会をしております
株式会社コレクション情報
代表取締役社長 村上和比子
岐阜県岐阜市茜部本郷1-49
TEL 058-274-1960

刀剣の店 玉山名史刀
玉山祐司・真敏
岡山市北区田町1-1-1
TEL／FAX 086-227-4188
URL http://www.t-touken.com

刀剣・小道具・甲冑、売買、工作及び相談承ります。
株式会社 むさし屋
代表取締役 猿田慎男
〒590-0025 大阪府堺市堺区向陵東町1-2-19
TEL 072-251-8600
FAX 072-257-2885
URL http://www.musasiya.co.jp

株式会社 金丸刀剣店
金丸一三
東京都大田区東雪谷2-28-10
TEL 03-3728-3323

赤荻刀剣店
赤荻稔
茨城県下妻市下妻乙172の5
TEL 0296-44-2643

もちだ美術
持田具宏
さいたま市中央区上落合1-9-4-447
TEL 048-855-4792

笹原俊和
〒869-2612
熊本県阿蘇市一の宮町宮地4375-1
携帯 090-3078-4044

刀剣・古美術・古書画 ㈱日宝
代表取締役 田澤二郎
〒160-8321
東京都新宿区西新宿1-1-4
京王百貨店 新宿店6階 刀剣サロン
TEL 03-5321-5301（直通）

服部美術店
東京都中央区日本橋3-5-12・2F
TEL 03-3274-5170

株式会社 山城屋
代表取締役 嶋田伸夫
東京都豊島区巣鴨1-21-8
TEL 03-3942-2701

刀剣鑑定書発行業務
一般社団法人 倉敷刀剣美術館
代表理事 佐藤均
〒710-1101
岡山県倉敷市茶屋町173
TEL 086-420-0066

信州刀剣会
籏谷大輔
東京都墨田区横網1-11-4
TEL 03-6456-1344

木村美術刀剣店
木村義治
群馬県高崎市萩原町484-10
TEL 027-352-1590
FAX 027-352-1591

大和美術刀剣
大西康一
さいたま市南区大谷口5277
TEL 048-875-2122

㈱丸英刀剣
銀座 丸英
栃木県小山市乙女3-7-30
東京都中央区銀座7-13-22 友野ビル1階
URL https://maruhidetouken.com

日本刀の 江州屋
名品・名刀を販売
店主 小暮昇一
〒529-1315
滋賀県愛知郡愛荘町沓掛80-1
電話 0749-42-5106
携帯 090-3162-7641
http://www.goushuya-nihontou.com

刀剣美術 静心堂
芦澤一幸
芦澤淳
〒272-0826 千葉県市川市真間2-1-26
TEL／FAX 047-321-1039

印刷／株式会社キタジマ